

展示場リニューアルのお知らせ

南アジア展示・東南アジア展示がいよいよ3月19日(木)新オープン！みんなくでは、すべての展示場を順次刷新していく計画を進めています。

南アジア展示

南アジアは、豊かな自然環境のもと、さまざまな宗教や文化、社会集団が共存しあう知恵を育んできました。信仰やくらしの技の多様性、独特の発展を見せる大衆文化や染織文化の展示をとおして、躍動する南アジアの姿を紹介いたします。



リトゥ・クマールデザインの婚礼衣装

東南アジア展示

起源を異にする民族がさまざまな生活スタイルでくらす東南アジアでは、民族や文化が入り組み、異種混淆(いしゅこんごう)の世界が広がっています。「東南アジアの1日」をコンセプトに、その多彩な文化を紹介いたします。



魔女ランダ / インドネシア

みんなくゼミナール

時間 13時30分～15時(13時開場)
会場 本館講堂
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は観覧料が必要です)
第442回 3月21日(土)
「ミン」と家庭
——100年前のグローバル商品——
講師 森明子(本館教授)



20世紀初頭にドイツ(上)と日本(下)で販売されたシンガー社のミンと説明書 本館所蔵

みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

時間 14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料(要展示観覧券)
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します！

3月1日(日) 本館ナビひろば
言語の調査とはどういうものか
話者 吉岡乾(本館助教)

3月8日(日) 本館ナビひろば
鶏からみた世界史…アジアの森から世界の台所へ
話者 池谷和信(本館教授)

3月22日(日) 本館ナビひろば
災害の記憶とコミュニケーション
話者 竹沢尚一郎(本館教授)

3月29日(日) 本館ナビひろば
パプア・ニューギニアのタイムカプセル
——ジョージ・ブラウン・コレクション
話者 ビーター・J・マシウス(本館教授)
※日本語・英語(逐語通訳あり)

公開講演会 「いやし旅のウラ?表?——現代アジア ツーリズム考」

「ケア」や「癒やし」を目的としたツーリズムに焦点をあて、その現状の一端を講演者の現地での研究に基づいてお話しします。
日時 3月20日(金)18時30分～20時45分
(開場17時30分)
会場 オールホール(大阪市北区梅田 3-4-5毎日新聞社ビルB1)
※参加無料、要事前申込、参加証必要
お申し込み・お問い合わせ
本館 研究協力係
電話 06・6878・8209

国際ワークショップ

「民族学資料の展示への利用とソースコミュニティとの協力関係」
従来から協力関係を抜きにしては活動できなかったロシアとアメリカ、そして日本と同様に近年そのような関心を持ち始めた韓国の「国立」もしくはそれと同レベル以上の規模と経営母体を持つ博物館の展示の諸問題の事例と比較研究を行います。
日時 3月10日(火)10時～18時
会場 本館第4セミナー室(定員20名)
※参加無料、申込不要、先着順、ロシア語・英語(逐語通訳あり)

公開フォーラム

「世界文化遺産「ナスカの地上絵」の研究と保護をめぐる国際協力」
南米の古代アンデス文明を代表する「ナスカの地上絵」は、世界文化遺産に登録されながらも、学術的解明はまだ途上です。総合的に取り組む日本チームの成果を紹介しつつ、破壊の危機に瀕した地上絵の保護について、ペルー人研究者とともに討議します。
日時 3月19日(木)14時～16時30分
会場 本館第4セミナー室(定員80名)
※参加無料、申込不要、先着順、日本語・スペイン語(逐語通訳あり)

●南アジア・東南アジア展示リニューアルのお知らせ

展示リニューアル工事のため、南アジア・東南アジア展示場を閉鎖しています。
期間 2015年3月18日(水)まで

●施設一部閉鎖のお知らせ

3月15日(日)は万博記念公園ふれあいの日のため本館展示を無料で観覧いただけます。

刊行物紹介

■上羽陽子 著 『インド染織の現場——つくり手たちに学ぶ(フィールドワーク選書)』 臨川書店 2,000円(税抜)

■佐々木史郎 著 『シベリアで生命の暖かさを感ずる(フィールドワーク選書)』 臨川書店 2,000円(税抜)

「インド染織の現場」は、牧畜を主な生業とするラパーリーの人びと。彼らの染織品に魅せられた著者は、実際に刺繍、糸紡ぎ、牧畜用具づくりなど現地の製作者に教えを乞い、様々な手工芸の習得に取り組むなかで、ものづくりとは何か?を模索します。みずからの手を使い、つくることを通して異文化を知っていく過程を丁寧に綴った一冊です。

「シベリアで生命の暖かさを感ずる」は、北方ユーラシアでの民族調査とはどのようなものか、フィンランド北部のサーミ、中国内モンゴル北部のエヴェンキ、ロシア・シベリアのネネツ、エヴェンなどの人々との出会いを中心に紹介します。

みんなく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス
春の遠足・校外学習にむけて事前見学に来館される学校団体の先生方を対象としたガイダンスを開催します。新しくなった展示についても研究者が展示場で説明します。
日時 4月3日(金)、4月6日(月)
14時～16時30分(受付13時30分～16時)
会場 本館第5セミナー室ほか
お申し込み・お問い合わせ
ホームページから参加申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAXにてお送りください。
広報企画室 広報係
電話 06・6878・8560

国立民族学博物館・金沢大学共同開催 文化資源シンポジウム

「文化資源の保存・継承に向けた国際協力」
本館と金沢大学との間で締結された学術協定に基づくシンポジウムです。両機関において独自に進めてきた文化資源の保存と継承に関するプロジェクトを紹介し、接点をさぐることで、今後共同で実施できる研究事業を模索します。
日時 3月29日(日)13時30分～17時30分
会場 石川県政記念しいのき迎賓館(金沢市広坂2-1-1)
※参加無料、申込不要、先着順(定員70名)
主催 金沢大学
共催 国立民族学博物館
お問い合わせ
金沢大学国際文化資源学研究中心
電話 076・2664・5788

みんなくミュージアムハートナイス

「点字体験ワークショップ」
目で読む文字から手で読む文字へ。点字で異文化コミュニケーションを体験してみませんか。
日時 3月14日(土)12時～15時30分
4月11日(土)12時～15時30分
会場 本館エントランスホール
※参加無料、申込不要

「西アフリカの昔話を語る」
素朴でどこかつかい西アフリカの昔話を話します。
日時 3月8日(日)11時30分～12時
会場 本館エントランスホール
※参加無料、申込不要

みんなく創設40周年記念 カレシジシアター「地球探究紀行」
総勢18人の研究者が驚きと感動をお届けします。世界の文化の、奥深く、へこ一緒にどうぞ。今月で最終回です。
時間 13時～14時30分
会場 あへのハルカス近鉄本店「スペース9」
※要事前申込(参加状況により当日受付あり)、参加費各回1000円
主催 産経新聞社
特別協力 国立民族学博物館、千里文化財団
3月4日(水)
西アフリカを握る——発掘から見えてくる「中世」アフリカの歴史
講師 竹沢尚一郎(本館教授)
3月11日(水)
韓国の食の世界——ご飯
講師 朝倉敏夫(本館教授)
3月18日(水)
日本とアイヌ民族——隣人としてくらす
講師 齋藤玲子(本館助教)
お申し込み・お問い合わせ
ウェーブ産経カレシジシアター係
06・66333・9087

※各イベントについてくわしくはみんなくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

友の会

友の会講演会(大阪)

第441回 4月4日(土)14時～15時10分
会場 本館第3セミナー室(当日先着順、会員登録提示)
世界の食文化を学ぶ①
つくられる地域の食
——スローフード発祥の地、イタリヤから考える——
講師 宇田川妙子(本館准教授)

モノと情報が行き交う現代、日本における地産地消をはじめ、食の安全や地域再興といった文脈のもと、地域に根差した食を実践化する傾向が数多く見られます。一方で、ローカルな食の形成には、市場や国家、人ひとの移動等、グローバルな現代社会の様相が複雑に関係するといわれています。食の安全だけでは語ることはできないローカルな食の形成について、イタリヤを例に考えます。
■講演会終了後、講師を囲んで茶話会を開催します(1時間程度)。
第442回 5月2日(土)14時～15時10分
会場 本館第5セミナー室(当日先着順、会員登録提示)
躍動する南アジアの背景にせまる
講師 三尾稔(本館准教授)

東京講演会

会場 モンベル渋谷店5Fサロン
定員 60名(要事前申込、会員無料・一般5000円)
第111回 4月11日(土)13時～15時
「氷の島」に生きる人びと
——グリーンランド・イヌイットの文化と歴史——
講師 岸上伸啓(本館教授)

極北に位置する、世界最大の島グリーンランド。全島の8割を厚い氷床が覆うこの「氷の島」では、人口の9割をイヌイット系の人びとが占めています。海域の狩猟と漁業を基盤に、寒冷な自然環境に適応した生活を営むグリーンランド・イヌイットとはどのような人びとなのでしょう。また、地球規模の環境問題やグローバル化本国デマークとの関係は、彼らにどのような影響を及ぼしているのでしょうか。彼らの文化と歴史、そして現在の様相を併せて紹介します。

■講演会終了後、会場を移動して、関連する展覧会「スビリチュアルグリーンランド」(会場 代官山ビルサイドフォーラム)の見学を予定しています(1時間程度)。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。